

特定技能受入を学ぶ

外国人材の育成・紹介を手掛けるONODERA USER RUN (東京都千代田区)は9月25日および10月14日、山形市内特別養護老人ホーム施設長連絡会と連携して、特定技能について学ぶオンライン勉強会を実施。技能実習生との違いなどの基本知識の確認や、実際に内定が決まっている特定技能の学生との座談会も行われた。同社は今後、同様の勉強会を全国で展開していく方針だ。

山形市で勉強会 人材不足でニーズ増

ONODERA USER RUN

勉強会は2回に分けて実施。9月に行われた1回目では、特定技能の制度について、技能実習生と比較しつつ解説された。講師は、

同社のミャンマーでの事業の立ち上げに関わった国内事業統括営業企画部伊奈義行(イナノヨシユキ)執行役員が務めた。また、

ミャンマー人介護士の受け入れを予定している2施設の担当者が、実際に必要だった準備について紹介するなど、送り出し元と受け入れ先の両者の視点から意見が述べられた。続く2回目では、特定技能で山形県の法人での就労が決定している、ミャンマー国内の学生とオンラインによる座談会を実施。参加者から学生への「地方で暮らすことに不安はありませんか」という質問に、学生は「山形



勉強会当日の会場の様子



ミャンマー現地の学生と座談会が行われた

県の環境は、ミャンマーに似ていると感じます。暮らしやすさに不安はありません」と答え、場を和ませた。勉強会の参加者からは、「混同していた技能実習との違いが明確に理解できた」といった声のほか、「実際の会話を通じ、特定技能の人々の人柄が伝わった」などの感想が挙がった。

25年に1800名不足 特定技能に活路 山形県では、進学を

機に地元を離れる若者が多く、人材の確保が難しくなっている。県

の発表によると、2025年に1805人の介護士が不足すると予想されていることから、外国人材のニーズが高まっている。

そのような状況もあり、施設長連絡会の幸田幸悦(ユキタユキユキ)会長より同社に対して、「特定技能にも興味がある。最新の情報も教えて欲しい」といった相談があり、

今後、要望があれば全国各地で開催する方針だ。